

MITSUMI



編集方針

Editorial Policy

「ミツミ電機グループCSRレポート2016」の編集にあたって

本レポートは、ミツミ電機(以下、ミツミ)グループの事業活動におけるCSR(Corporate Social Responsibility: 社会的責任)への取り組みについてまとめています。ミツミのCSR活動をステークホルダーの皆様へご紹介し、皆様との信頼関係をより深めていくことを目的に発行しています。

また、「持続可能な社会の実現」に向けたミツミの取り組みをご理解頂くため、環境活動報告書の内容も盛り込んでいます。

本レポートを通じ、ミツミのCSR活動に対するステークホルダーの皆様のご理解を深めていただければ幸いです。

報告対象期間

2015年度(2015年4月1日~2016年3月31日)を中心に作成

WEB掲載情報

<http://www.mitsumi.co.jp/profile/csr.html>

報告対象組織

ミツミ電機グループ

(ミツミ電機株式会社および国内外の事業所・関係会社)

お問い合わせ先

本社総務部 CSR推進委員会事務局

TEL:042-310-5160/FAX:042-310-5168

目次

編集方針・目次	2	環境報告書	
ミツミ電機会社概要	3	環境方針	20
トップメッセージ	4	環境マネジメントシステム	21
社是・経営理念	6	グリーン調達/マネジメント体制	22
経営方針・事業部構成	7	ISO14001認証取得状況/環境監査	23
事業構成	8	環境教育/中期目標と達成状況	24
CSR報告書		環境会計	25
コーポレートガバナンス	10	2015年度の事業活動と環境負荷の概要	26
コンプライアンス	11	化学物質管理	28
ミツミ行動規範	12	環境負荷の削減	30
リスクマネジメント	13	生物多様性保全	32
お客様とミツミ	14	環境コミュニケーション	33
仕入先様とミツミ	15	各事業所における環境保護活動	34
株主・投資家様とミツミ	16	サイトデータ	36
地域社会とミツミ	17	ミツミワールドワイドネットワーク	38
従業員とミツミ	18		

ミツミ電機会社概要

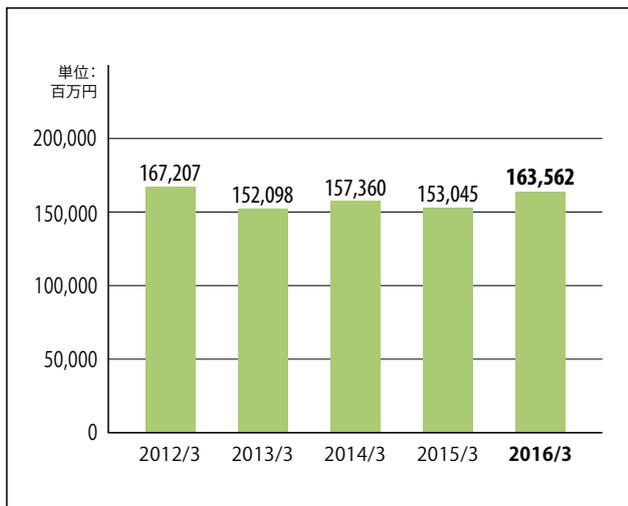
MITSUMI ELECTRIC Company Profile

会社基本情報(2016年3月31日現在)

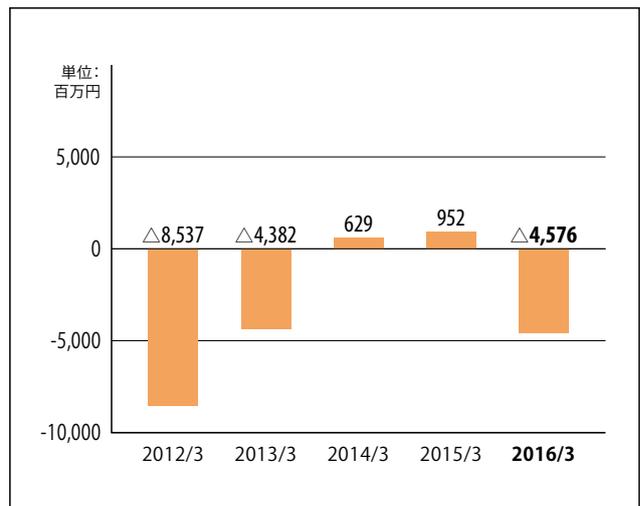
商号 ミツミ電機株式会社
 設立 1954年1月
 所在地 本社/東多摩市鶴牧2丁目11番地2
 TEL:042-310-5333(大代表)
 FAX:042-310-5168

資本金 398億9,025万794円
 代表者 代表取締役社長 森部 茂
 従業員数 単体:2,536名/連結:34,704名
 売上高 連結:1,635億6,200万円
 2016年3月期決算

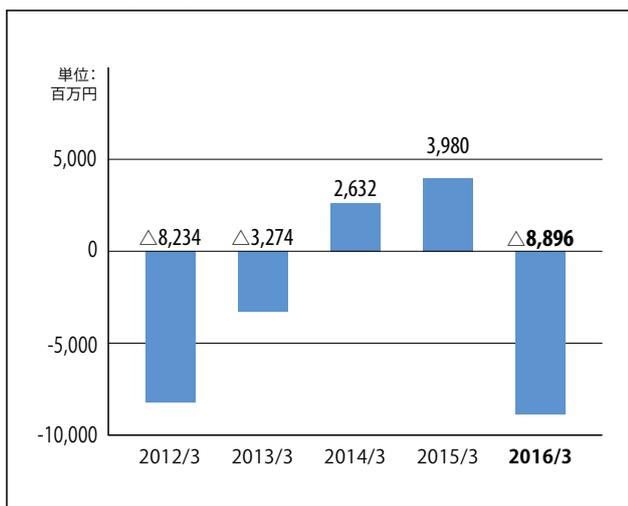
■売上高(連結)



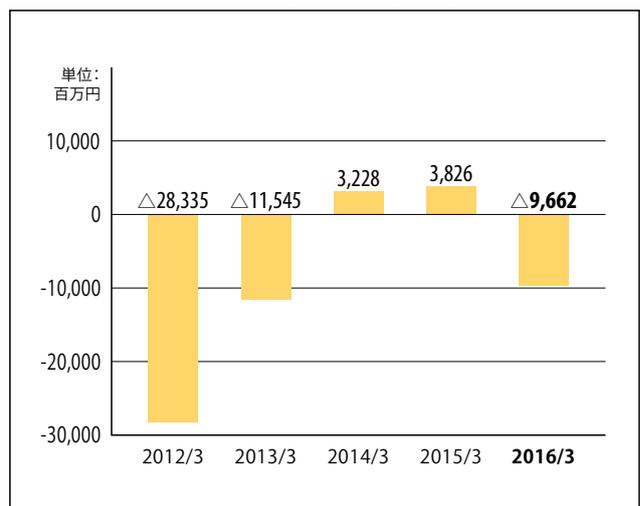
■営業利益(連結)



■経常利益(連結)



■親会社株主に帰属する当期純利益(連結)



事業拠点

■日本

千歳、秋田、山形、東京(本社)、厚木、刈谷、京都、大阪、洲本、広島、福岡

■ヨーロッパ

ドイツ、フランス

■アジア

北京、天津、青島、上海、呉江、深圳、珠海、香港、台湾、タイ、マレーシア、シンガポール、フィリピン、セブ、韓国

■アメリカ

デトロイト(本社)、クパティーン、シアトル、メキシコ

トップメッセージ

Top Message

**独創的な技術力と高い企業倫理を持ち、世界に貢献する企業へ。
企業の社会的責任を果たし、社会の持続的な発展に貢献していきます。**

高い企業倫理を基盤に持続的成長を目指す

現在の世界経済は、米国では経済の拡大基調が持続し欧州でも景気の底入れが見られましたが、中国を始めとする新興国全般で景気の減速感が強まっております。このような世界の経済状況の中、国内においては企業の収益力が向上するなど、より逞しい日本経済へと体質改善が進んでいると見ております。

世界が目まぐるしく変化し続けていく中、当社がステークホルダーの皆様の期待に応え、持続的成長を遂げる企業となるためには、当社の本業である電子部品の製造において、時代の変化に柔軟に機敏に対応し、お客様や社会の課題解決の役に立つ製品・サービスを提供し続けていくことが重要です。また同時に、ミツミの社員一人ひとりが社会の一員として責任を果たし、その役割を担っていく必要があると考えております。

企業の社会的責任につきましては、経営の最重要課題の一つと位置付け、経営陣の関与を強めることを目的にCSR推進委員会を組織し、グループ横断の取り組みを行っております。経営管理、法令・社会規範の遵守、情報の管理と適時開示等については、グループ全体の推進体制を一層強化してまいります。



省資源・省エネルギー、環境保全をさらに推進

近年、新興国の経済が著しい発展を遂げており、世界経済を牽引してきました。しかしその一方で、エネルギー消費の増大による資源の枯渇、二酸化酸素などの排出による地球温暖化の進行といった問題が深刻化してきており、社会の持続可能性が脅かされる大きな問題となりつつあります。また、日本におきましても、東日本大震災以降、エネルギー政策は大きな変化点を迎えており、企業においては今まで以上に、効率的にエネルギーを利用して事業活動を行うことが求められています。

企業活動が地球環境や社会へ与える影響は大きく、またその影響は、今後さらに大きくなっていくものと考えており、企業が事業運営を行っていく際には、これまで以上に地球環境や社会への影響を配慮していく必要があります。ミツミが社会へ果たす役割・責任は、今まで以上に大きくなっていくものと考えております。

当社は、環境問題を経営の最重要課題の一つと位置付け、製品開発・設計から生産工程などのあらゆる面で環境負荷を低減させ、省資源・省エネルギー化を進めるべく、一層の努力を重ねてまいります。また、温室効果ガスの削減と生物多様性保全活動につきましても継続して推進してまいります。

皆様の期待に応え、社会の発展に一層貢献する企業へ

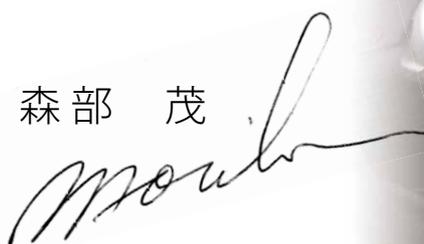
当社は、昭和29年1月に東京都大田区雪ケ谷に三美電機製作所として創業いたしました。創業当初はソケットやコネクタなど通信機器用のパーツを製造販売しており、その後現在に至るまで電子部品の総合メーカーとして「ものづくり」を通じ、社会の発展に広く貢献してまいりました。

現在、企業をとりまくビジネス環境はとても早いスピードで変化しております。このような環境変化に対応しつつ、当社ならではの付加価値のある製品を社会に対し提供し続けることが今後も求められ続けられており、そのためには事業基盤の強化が不可欠となっております。

ステークホルダーの皆様の期待に応え、当社を新しいステージへ飛躍させるため、ミネベア株式会社との経営統合を行うことを決断いたしました。当社とミネベアとの経営統合によってシナジーを創出して行くことが企業価値の持続的向上に繋がっていくと考えております。当社は、経営統合後も本業である「ものづくり」を通じて社会の発展へ貢献し、新しい価値を提供してまいります。

ステークホルダーの皆様には、一層のご理解とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

代表取締役社長 森部 茂



社是・経営理念

Corporate Mission, Business Philosophy

社 是

美しい親和
美しい製品
美しい取引

1954年(昭和29年)に創業した当社の前身「三美(みつみ)電機製作所」。その社名の「三美」には、「美しい親和」、「美しい製品」、「美しい取引」の三つの理念が込められ、わが社の社是となっています。“美しさ”は、清らかさ、正しさ、誠実さをも表し、環境を守り、ステークホルダーとの豊かな協調へとつながっていきます。これらの三つの“美しさ”を守り通す精神は、我々のCSR活動の隅々にまで貫かれています。

経営理念

わが社は、電子部品の総合メーカーとして
また、世界のミツミとして、
たゆみなき成長発展を続け、
電子部品を通じて全世界の人々に貢献する

エレクトロニクスの発展に寄与し、人々の生活の向上、幸せに貢献することを、創業以来の経営理念としてきました。数多くの技術革新によってエレクトロニクス環境は大きく変貌し続けていますが、ここに掲げた理念はいつまでも変わることなく、ミツミの事業活動の基盤となっています。

経営方針・事業部構成

Management Policy, Business Division Structure

成長市場、高シェア製品群への事業リソースの集中を加速させるとともに、新たな事業分野の開拓を図り、さらなる事業の拡大に注力していきます。

ミツミは、独自のコア技術を活用した高機能・高精度な新製品の開発を進め、収益性重視の事業展開に取り組んでまいりました。今後は世界中で高い市場占有率を持つ製品群に経営リソースを集中し、新技術の開発とその市場投入に注力し、市場における優位性をさらに高めます。また、AV・通信市場で培った技術を応用し、車載・ヘルスケア市場で新たな事業を創出していきます。

総合電子部品メーカーとしての「確かな開発力」と、市場の変化に即応する「柔軟なものづくり力」を両輪に、ミツミは、さらなる売上拡大と収益力向上に努めていきます。



要素部品事業本部

接続機器事業部

コネクタ、モータなどの部品を製造。優れた精密加工技術、磁気設計技術を駆使することで部品の小型・薄型化、高品質化を実現し、幅広い分野の機器向けに供給しています。

精密部品事業部

スイッチ、コイルなどの基幹部品の開発・生産を担当。モバイル機器やデジタルAV機器の小型・薄型部品に注力しています。また、精密加工事業も管轄し独自の精密部品を供給しています。

光デバイス事業部

光学設計や薄膜設計、精密機構設計などの先端技術を活かし、携帯電話用カメラモジュールやオートフォーカス機能を備えた高精度アクチュエータを製造。高いシェアを獲得しています。

電子機器事業本部

電源事業部

業界トップクラスのシェアを誇る小型ACアダプタ、内蔵スイッチング電源、LED照明機器用電源など、高効率・省電力性能に優れた多彩な電源製品の開発・生産を行っています。

機構部品事業部

OEM・ODMを中心に幅広い電子機器の設計・製造を担当。ミツミ電機が擁する豊富なコア技術と独自の設計手法、高度な生産技術を融合することによって、高性能・高品質を実現しています。

半導体事業本部

半導体事業部

電池関連IC、独自のアナログIC技術とデジタルIC技術を融合した高性能システム・オン・チップ製品などを生産。また、ウエハ受託製造のファウンドリ事業も展開しています。

車載事業部

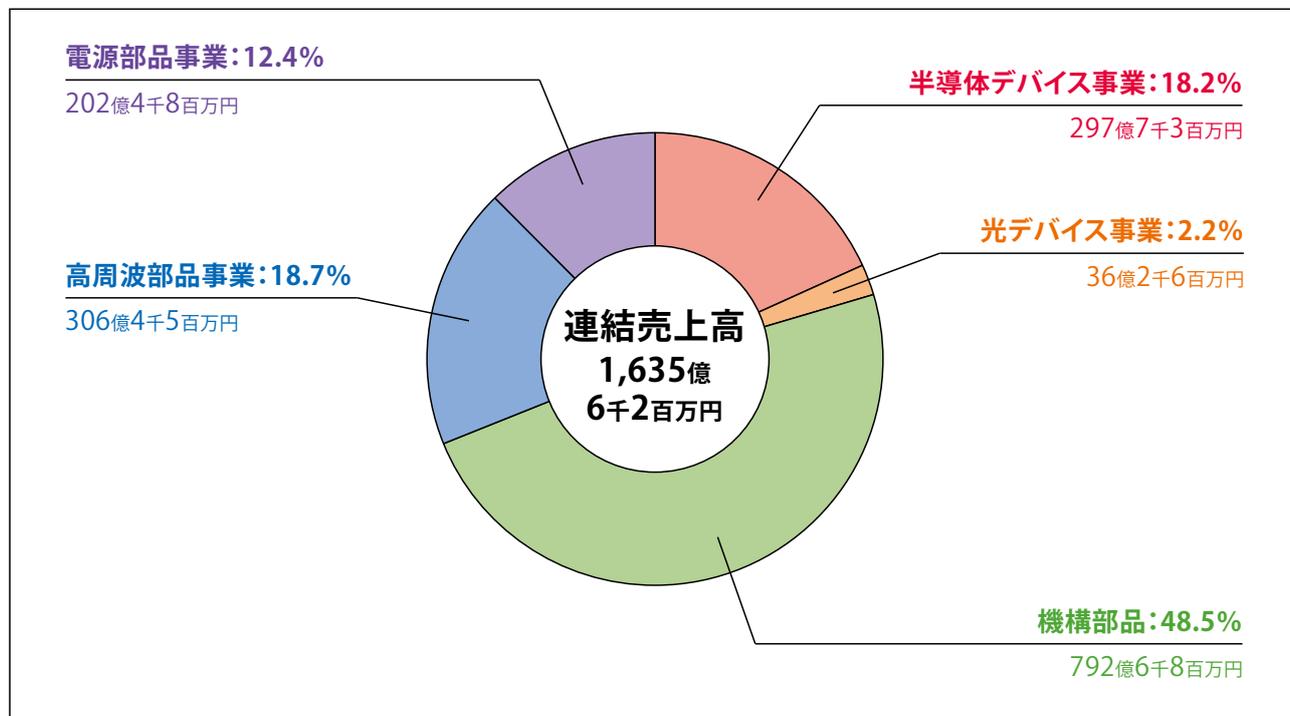
各種アンテナやチューナなど車載機器向けの高品質・高信頼部品を開発。進化するカーエレクトロニクス分野に向けて独自の部品を供給し、自動車のより快適で安全な環境づくりを支えています。

事業構成

Business Segments

事業構成別売上高構成比

■事業構成別売上高構成比(2016年3月連結)

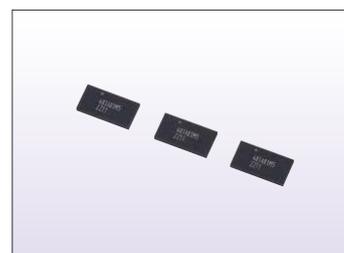


トピックス(新製品)

MJ3401

リチウムイオン/リチウムポリマ二次電池用メモリ内蔵保護IC

電池の高容量化や負荷の増大に伴う大電流化の市場動向に対して、過充電検出電圧の高精度化により電池の使用時間を延ばすこと、過電流遮断電流の高精度化によりセットの常用電流を確保し、より安全な領域で異常電流を遮断することをコンセプトに開発いたしました。リチウムイオン二次電池を使用した携帯端末において、より安全性を向上させることに貢献いたします。具体的には、メモリ内蔵により組立て後に過充電検出電圧、過電流遮断電流の補正が可能となります。また保護ICと充放電スイッチ用FETを1つにパッケージ化およびMAX0.5mmと低背化することにより基板設計の容易化が図れます。

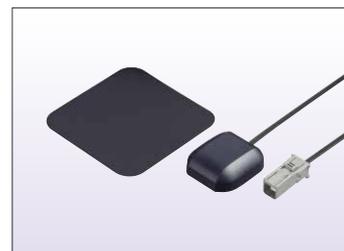


MJ3401

GPA-CS200

小型GPS/GLONASSアンテナ

GPSは衛星測位システムとして広く利用されています。近年、このGPSにGLONASSの衛星を利用した測位も可能なアンテナ市場のニーズが高まっています。衛星測位が増えることにより、受信可能エリアが拡大し、また測位精度も向上します。本製品はGPS/GLONASSの小型化アンテナになります。当社従来比55%とし、GPS単体のアンテナと同一形状を実現しました。車両への電子機器の搭載アイテムがますます増加するなか、アンテナの搭載スペース確保が年々厳しくなっていく状況を踏まえ、従来スペースでの置き換えが可能な形状としています。



GPA-CS200

CSR報告書

Corporate Social Responsibility Report

コーポレートガバナンスと ステークホルダーのマネジメント体制

CSR報告書・目次

コーポレートガバナンス	P.10
コンプライアンス	P.11
ミツミ行動規範	P.12
リスクマネジメント	P.13
お客様とミツミ	P.14
仕入先様とミツミ	P.15
株主・投資家様とミツミ	P.16
地域社会とミツミ	P.17
従業員とミツミ	P.18

コーポレートガバナンス

Corporate Governance

コーポレートガバナンスの強化によって、経営のスピードアップと効率化を促進し、健全性・透明性の確保、株主価値の向上に努めます。

ミツミは、刻々と変化を続けるグローバル市場において、業績の向上や事業拡大への対応を図り、企業価値の持続的な向上を行っていくため、経営の効率性・迅速性を高めると同時に、その健全性・透明性を確保することが重要であると考えています。このような考えに基づき、ミツミは、スピーディかつ確かな経営判断が行える体制を構築すると共に実効性あるコーポレートガバナンス体制を構築するため、監査役制度の採用、社外取締役の選任、執行役員制度の導入、15年12月コーポレートガバナンス・ポリシーの制定など、コーポレートガバナンス体制の改善・強化に努めています。

コーポレートガバナンス・ポリシー

東証のコーポレートガバナンス・コードの趣旨を踏まえ、12月にミツミのポリシーを制定しています。株主総会を経営の最高意思決定機関とし、株主の権利行使に係る適切な環境整備に努めます。総会の場以外での株主との対話、その他のステークホルダーとの良好な関係の維持向上、正確な情報開示・提供に主体的に取り組んでいきます。また、取締役会、監査役会の構成・役割・責務、取締役および監査役候補者選定基準を明確にしています。

取締役会

取締役会は決議機関として、経営方針や業務運営上の重要事項についての最終決定を行うとともに、執行役員による業務執行を監督する役割を担っています。また、より意思決定の妥当性、経営の健全性、透明性を向上させるため複数の社外取締役を選任しています。

監査役会

監査役は取締役等の職務執行状況の監査および取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っています。また、経営トップとの定期的な意見交換会を実施するとともに、適宜、グループ会社などの現場往査も行っています。ミツミでは外部からの経営チェックの観点より監査役3名を社外監査役としています。

執行役員

執行役員は担当する部門の業務執行を司る幹部社員となります。執行役員制度を導入し十分な権限を与えることで、意思決定ならびに業務執行の迅速化を図っております。執行役員会議は、代表取締役の意思決裁を補佐する諮問機関としての機能を有します。

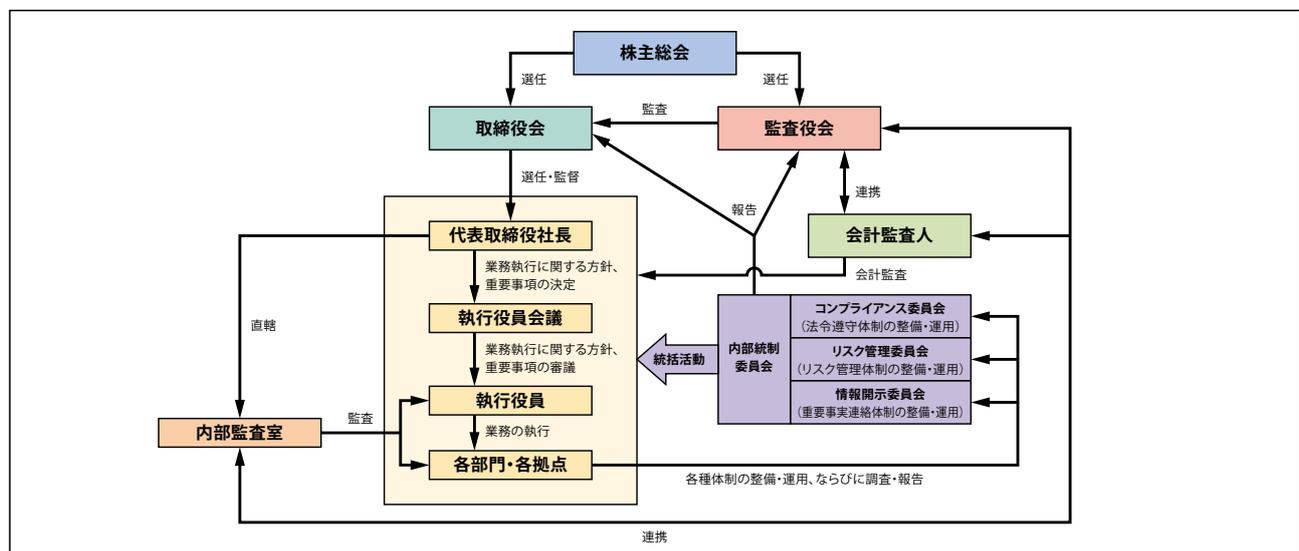
内部監査室

内部監査室は、ミツミの各部門及び子会社において、業務管理や手続きの違法性、妥当性の実地監査を継続的に行っています。また、監査役との定期的な会合を持ち、情報や意見交換を通じ、監査品質の向上に努めています。

内部統制

会社法及び金融商品取引法により求められる内部統制システムをミツミグループにおいて整備しています。業務の有効性・効率性を向上させ、財務内容の信頼性確保、事業活動に関わる法令等の遵守、資産の保全を図っています。

■コーポレートガバナンス体制



コンプライアンス

Compliance

ミツミは、コンプライアンス体制を構築し、グループ全体を挙げて法令・行動規範・規程の遵守、企業の社会的責任の遂行に取り組んでいます。コンプライアンス委員会は、担当取締役、総務部（法務グループ）、内部監査室等により組織され、業務分掌や職務権限等の社内規程を整備し、社内手続きに則って業務を執行する体制を整えています。

コンプライアンス体制

ミツミでは取締役、監査役、執行役員、海外子会社責任者などが出席する内部統制委員会を年2回開催しています。その中でコンプライアンス委員会、リスク管理委員会、

情報開示委員会の活動状況を報告しています。また、同委員会において財務報告の信頼性を確保するための業務および内部監査の運用状況についても報告しています。

コンプライアンス意識の徹底

ミツミでは、法令や社内規程についてだけでなく、コンプライアンスの重要性についても社員に周知、徹底するため、教育活動の強化を進めています。

具体的には、基本的な内容を入社時に教育すると共に、昇級（昇格）したときや管理職に登用されたときなど等級、

役職に応じて、コンプライアンス教育を実施しています。

また、特に重要な事項については、外部の専門家を招いて講習会を行うだけでなく、法務や内部統制の担当者が各拠点に出向いて説明会を行うなどの活動も実施しています。

知的財産の尊重

他社の知的財産権を侵害することは、ミツミ自身の事業に影響を及ぼすだけでなく、ステークホルダーの皆様にも多大なご迷惑をおかけすることになります。

このような事態を起こすことがないように、ミツミでは知的財産に関する規程を設け、それに基づく手続きを整備しています。

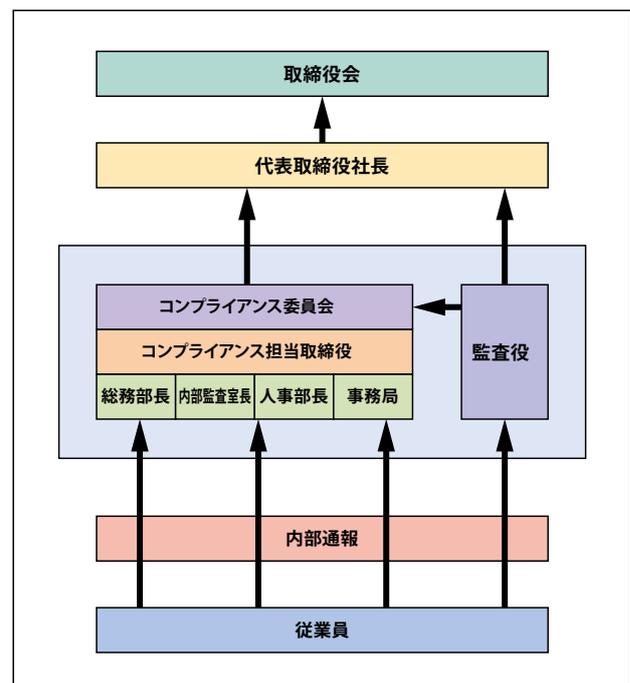
内部通報窓口制度

さまざまな法令や社内規程に反する行為をいち早く発見し、それらの違反・違法行為による影響を未然に防止するため、内部通報窓口を設置しています。

さまざまな相談や通報を随時受け付け、寄せられた内容に応じた調査と対策を行い、必要な是正措置を迅速に実行できる体制を整えています。

また、内部通報窓口への通報者の保護にも万全を期し、秘密の厳守、匿名による通報の受付など通報者が不利益を被らないよう十二分に配慮しています。

■コンプライアンス推進体制



ミツミ行動規範

MITSUMI Code of Conduct

全従業員へ行動規範を配布・掲示

ミツミが経営理念として掲げている「電子部品を通じて全世界の人々に貢献する」ことを実践していくためには、法令や倫理を遵守することが原則であることは言うまでもありません。そのためには、ミツミの一人ひとりが高い倫理観を持ち、公平かつ公正な企業活動を行っていくことが大前提となります。

ミツミでは、この考えのもとに一企業、一社員として心掛けておくべき事項を「ミツミ行動規範」としてまとめています。社是である「美しい親和、美しい製品、美しい取引」を達成すべく、役員・従業員の一人ひとりが「ミツミ行動規範」を守り、常に法令や社内諸規程を遵守し、日常業務の遂行指針とするよう努めています。法令や企業倫理を確実に遵守し、社会のルール、良識に則った誠実な活動を行うことが、ステークホルダーの

皆様や社会からの信頼を得ることにつながり、企業の持続的な発展、企業価値の向上につながっていくと考えています。



●ミツミ行動規範小冊子
日本語版／英語版／中国語 簡体字版／中国語 繁体字版／マレー語版

ミツミ行動規範(項目)

平成17年4月1日制定・施行
平成27年6月4日改定・施行

■適用対象会社

- ミツミ電機株式会社
- ミツミグループ各社

■適用対象者

- ミツミ電機の役員および社員
- 国内外の関係会社の役員および社員
- 労働条件に係る部分以外は、派遣社員、パート、アルバイトにも適用

■規程項目

- 目的
- 適用範囲
- 報告義務
- 懲罰
- 遵守事項

- 社内での関係
 - 人権の尊重
 - 政治・宗教活動
- 社会との関係
 - 社会貢献
 - ステークホルダーの利益
 - 反社会勢力との決別
 - 環境保全
- 取引先との関係
 - 顧客第一の姿勢
 - 接待・贈答
- 株主・投資家との関係
 - 情報開示
 - インサイダー取引の禁止
- 会社財産、情報の管理
 - 会社財産の保全
 - 知的財産権の保護
 - 会社の有する情報の管理
 - 個人情報保護

リスクマネジメント

Risk Management

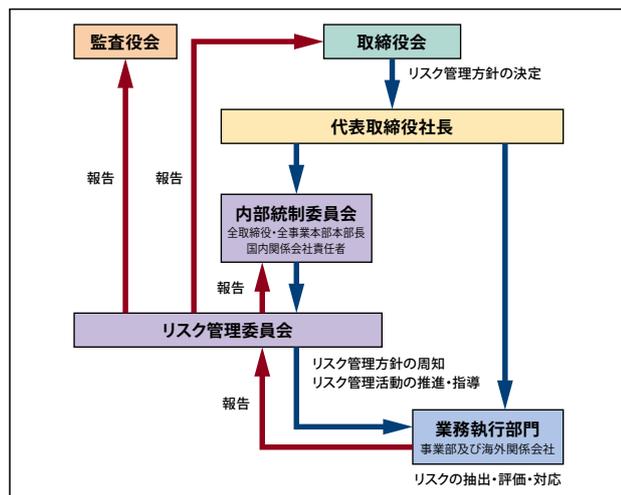
ミツミのリスク管理体制

近年、企業を取り巻くリスクは増大かつ多様化しており、コーポレートガバナンスの一環としてリスクの発生の予防と発生時の的確な対応が重要となっています。

ミツミでは、リスクの発生を未然に防止すると共に、万が一リスクが発生した場合に迅速かつ的確な対応が行えるよう、リスク管理体制を整備しています。

具体的な活動としては、事業活動を行うにあたり想定されるリスクをすべて抽出した上で、対処の優先度を決定し、具体的な対策の実施・指導を行っています。

■リスク管理体制



優良防火対象物認定*

ミツミ本社社屋は東京消防庁より優良防火対象物として認定されています。平成18年3月に公布された条例に基づき、いち早く平成18年12月に初回認定を受け、平成27年11月に4回目の更新となる、査察および自衛消防活動能力の審査が行われ更新認定を受けています。

*防火安全上優良な建物に対する公的評価およびその結果を表示・公表する制度。建物関係者が行った防火安全対策の向上に係る自主的・意欲的な取組み等を消防機関が評価する。



●優良防火対象物認定通知書交付式



●査察および審査風景



情報セキュリティ

保有する情報資産を厳重に管理することはもちろん、お客様、お取引先様に関する情報を守ることも、企業にとっての重大な使命であると認識しています。ミツミでは、すべての取締役および従業員が守らなくてはならない情報管理規程として「情報セキュリティポリシー」、

その下位規程として「情報セキュリティ基本規程」を制定しています。

また、PCの持ち出し・持ち込みの管理、登録されたUSBメモリ以外の使用禁止と使用方法の管理、PCのモニタリング等の各種規則を制定し、その遵守に努めています。

災害対策

地震・台風・水害等の自然災害は企業にとっても大きなリスクであり、被災した場合、経営に大きなダメージを与えてしまう危険性があります。ミツミでは、生産拠点を国内外に分散させることで、万一の際の生産への影響を最小限に抑え、製品の安定供給を図っています。

また、耐震補強工事や、老朽化の進んだ建物の建て

替えを順次実施し、来訪者や従業員の安全を確保しています。さらに、帰宅困難となった来訪者や従業員のための非常食・水・簡易トイレ等を配備し、災害時に円滑な対応ができるための備えを行っています。

また、各事業所で自衛消防隊を組織し、火災など緊急時への対応訓練を行っています。

お客様とミツミ

Customers and MITSUMI

お客様に関する基本的考え

お客様の満足度をいかに高めていくか。それは、電子部品メーカーにとっても企業発展のための最重要課題と言えます。ミツミでは、「市場動向およびニーズの変化の把握」、「環境への十分な配慮」、「適正な価格と高品質の両立」、「迅速かつ確実な納期」等を、お客様満足度向上

のための課題とし、仕事の仕組みの改善・向上に全社を挙げて取り組んでいます。

お客様とより強固な信頼関係に結ばれた電子部品メーカーとして、ミツミは、さらなる発展を目指していきます。

国際品質マネジメント規格の取得状況

ミツミでは、国内・海外のすべての事業所・生産拠点において、品質マネジメントの国際規格ISO9001の認証を取得しています。また、自動車産業に固有の要求条件を加えた、一段と基準の厳しい国際品質管理システム

規格ISO/TS16949の認証も取得しています。どの生産拠点で製造されたミツミ製品であっても同じ水準の高品質を提供できるよう、品質管理システムの維持・改善に取り組んでいます。

展示会出展・開催

「CEATEC JAPAN」

2015年10月7日(水)から10日(土)の4日間にわたり、幕張メッセにて「CEATEC JAPAN 2015」が開催され、ミツミも出展しています。昨年までの5日間開催から会期が1日短縮した影響もあり、総来場者は133,048名(昨年比88%)となりました。

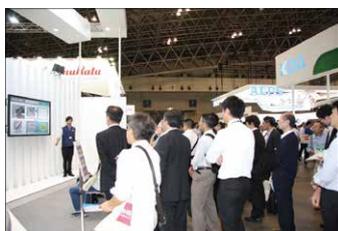
ミツミは「スマート技術が、未来を豊かにする」をテーマに「情報通信端末」「自動車」「ヘルスケア」「スマート社会」の4つの分野を展開し、近未来のスマートライフをより身近に感じて頂けるよう数多くのデモンストレーションを準備し、当社の先端技術を体験して頂きました。また、ステージでは、大型自動車デモをメインに、近未来の運転支援に貢献する製品を紹介しました。また、社員による技術プレゼンも行い、多くの聴講者を集め好評を博しました。



●CEATEC JAPAN会場の様子



●ミツミブース内の様子



●技術プレゼンの様子



仕入先様とミツミ

Suppliers and MITSUMI

購買の基本方針

高性能・高品質の電子部品を製造するためには、原材料や部品の仕入先様との緊密な協力関係が不可欠です。ミツミでは、法令遵守はもちろん、社会規範や社会倫理に従った公正で公平な購買業務に努めています。

特に、独占禁止法や下請法などの購買に関する法令については、購買担当部門や関係部門での説明会を行い、法令遵守を徹底しています。

CSR調達への推進

グローバルにビジネスを展開している企業には、自社はもちろんのこと、仕入先様も含めたサプライチェーン全体において法令遵守や人権、労働条件・環境・企業倫理等の社会的責任に配慮した企業活動を行うことが求められています。

そこで、ミツミでは、かねてから進めてきた「グリーン調達」を発展させ、人権や労働条件等への取り組み状況も考慮した「CSR調達」を推進し、仕入先様にCSRへの配慮をお願いしています。

グリーン調達への取り組み

環境重視型の電子部品を供給するためには、仕入先様にも環境負荷の低減に取り組んでいただき、総合的な製品づくりに取り組まなくてはなりません。ミツミでは、仕入先様から納入されるすべての材料・資材の成分情報を提出していただき、使用禁止物質が使用されて

いないかチェックを行っています。

海外生産拠点においても使用禁止物質のチェックを実施。さらに、中国・台湾・フィリピン・マレーシアの各地区において仕入先様企業への説明会を実施し、ミツミにおける使用禁止化学物質の管理をお願いしています。

化学物質管理

欧州のRoHS指令をはじめ化学物質の使用制限に関する法規制が、各国・各地域において整備されています。ミツミでは、化学物質を「入れない!使わない!出さない!」をスローガンに、製品中への使用

禁止物質の排除はもちろんのこと、管理対象物質を選定し使用量を把握するなど、独自の化学物質管理体制を構築しています。

株主・投資家様とミツミ

Shareholders, Investors and MITSUMI

情報開示の基本方針

ミツミでは、金融商品取引法や東京証券取引所の適時開示規則等の法令・規則を遵守し、株主・投資家の皆様の投資判断に、有益な情報を正確かつ公平に、適時・適切に提供することを、情報開示の基本方針としています。

この方針に基づき、「アニュアルレポート」、「報告書」等の各種レポートを発行し、四半期ごとの決算短信を当社ホームページに掲載しています。

また、株主総会等を通じて、株主・投資家の皆様とのコミュニケーションを図り、事業活動へのご理解をいただくと共に、ミツミに対する信頼や共感を深めて

いただき、適切な企業評価を得られるようIR活動を進めています。



●決算説明会資料



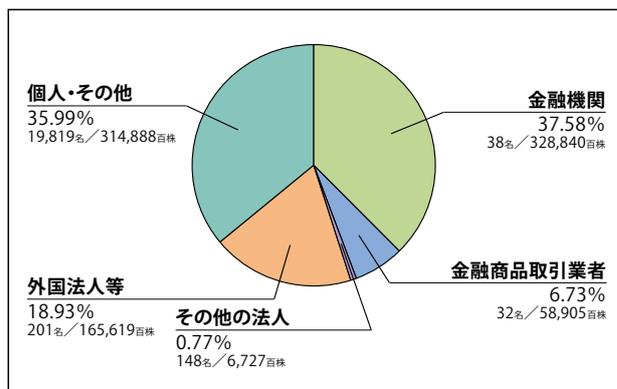
●ミツミ電機ホームページ・IR情報ページ
<http://www.mitsumi.co.jp/ir/index.html>

株式の状況

株式の状況（2016年3月31日現在）

発行可能株式の総数 ……………200,000,000株
 発行済株式の総数 …………… 87,498,119株
 株主数 …………… 20,238名

所有者別株式数分布図



※当社は自己株式を62,887株保有しています。（百株未満切り捨て、小数点第三位以下四捨五入）

投資家様とのコミュニケーション

機関投資家や証券アナリストの皆様へ、当社の経営成績や経営方針・事業戦略を理解していただくため、年2回の決算説明会を開催しています。社長と担当取締役が、決算の概要や業績の見通しなどについて説明しています。

また、昨年度より海外の投資家との面談も開始しています。ミツミは、IR担当者による機関投資家や証券アナリストの皆様との個別取材にも積極的に対応し、継続的なコミュニケーションを図っています。

株主総会

ミツミは、株主総会を株主の皆様と対し、直接コミュニケーションを行うことができる重要な場と考えています。できるだけ多くの株主様に株主総会にご参加いただき、議決権を行使していただけるよう、また、皆様のご意見をより多く頂戴できるよう、招集

通知を約3週間前に発送しています。

株主総会での事業報告においては、プレゼンテーションソフトを用い視覚的にわかりやすくご説明し、株主の皆様にご理解いただけるよう配慮しています。

皆様からの幅広いご質問やご意見を受け付けています。

地域社会とミツミ

Local Communities and MITSUMI

ミツミは、地域社会との共生・協調をモットーにグループ全体を挙げて、地域活動や社会貢献活動に参加し、さまざまな活動を行っています。

各事業所の交流・活動〈事例〉

千歳事業所

〈交通安全活動への取り組み〉

①北海道交通安全協会より、平成27年度千歳地区「交通安全功労団体」の表彰を受けました。季節ごとに実施している交通安全運動(年5回)、セーフティラリーへの参加など交通安全活動に組織的に取り組んでいることが高く評価されています。

②千歳・恵庭地区セーフティラリー運動に1998年から18年連続で参加しています。車両通勤者全員参加で5人1チームを結成し、7月～10月の4ヶ月間無事故無違反運動を展開。2015年度は84チームが参加し、78チーム無事故無違反を達成致しました(完走率92.9%)。

③毎年、千歳交通安全協会主催の標語に応募しています。2015年は歩行者部門 最優秀賞および運転者部門 優秀賞を受賞いたしました。



●授賞式の模様



●交通安全功労団体表彰



●千歳交通安全運動の様子

青島ミツミ(CQE)

〈クリーンキャンペーン〉

2015年10月25日 会社の秋季運動会開催と合わせて、社員全員で職業中学体育場を中心に、クリーンキャンペーン活動を実施しました。この活動は生物多様性保全活動の一環でもあります。



厚木事業所

〈相模川サミット・クリーンキャンペーンへ参加〉

神奈川県ほぼ中央を流れる一級河川「相模川」をきれいにしようと2015年5月17日、流域の6市町村(相模原市、厚木市、海老名市、座間市、愛川町、清川村)合同の『相模川サミット・クリーンキャンペーン』が厚木市で実施されました。会場となった相模川、中津川、小鮎川の三川合流点と、旭町スポーツ広場近くには市民ら約2,500人が集合。ミツミからは41名が参加し、早朝よりごみ拾いを行いました。清掃終了後には、参加した子供達を中心に鮎の稚魚放流も行われました。



●クリーンキャンペーンの様子



従業員とミツミ

Employees and MITSUMI

社員一人ひとりがその能力を存分に発揮でき、充実した仕事が行えるようにすることが、企業の継続的発展の重要課題であると、ミツミは考えています。社員の人格を尊重し、適正な処遇・配置を基本とし、やりがい、働きがいのある職場環境の整備に努めています。

人権の尊重

「ミツミ行動規範」では法令遵守はもとより、従業員の基本的な人権を尊重し、性別・年齢・人種など身体的要素や、信仰・価値観などの思想的要素、その他国籍・出身地などによる差別を行ってはならないと規定しています。この基本方針の下、不当な差別的言動や暴力行為、セクシャルハラスメント、強制労働などを許さない職場環境の構築、公正な人事制度の確立と雇用の自由

選択や結社の自由の確認、また、若年労働者の保護、法令に基づく労働時間の管理や賃金・福利厚生等の適用準拠を実施しています。また、海外の生産拠点や営業拠点においても、現地言語で作成した「ミツミ行動規範」を基に、現地法律に従い職場環境や人事制度における差別を排除し、人権尊重の考えを徹底しています。

海外拠点での人事制度

変化の激しいグローバル市場において企業が持続的に成長していくためには、人事制度において多様性を尊重することが一層重要になってきています。

ミツミの海外拠点では、現地での人材の採用・登用を

長年にわたって進めています。製造部門のみならず、開発セクションで活躍するエンジニアや管理職にも現地採用の人材を積極的に配することで、現地社員の能力・向上心を引き出し、活力のある職場作りを進めています。

定年退職後の再雇用制度を実施

「高齢者の雇用の安定等に関する法律」および厚生年金法の改訂を受けて、高齢者の活用と経済的安定を図ることを目的に、ミツミでは、60歳で定年を迎えた従業員を再雇用する制度を導入しています。

この制度により、ベテラン従業員の持つ技術や知識、豊富な経験の活用を図り、若い世代への伝承を図っています。

従業員の健康管理

ミツミでは、社員の健康管理をサポートし、社員が安心して幸せに働ける組織づくりに取り組んでいます。健康支援のアプローチとしては、定期的な健康診断や

健康教育の実施、健康相談、心のケアを必要とする社員に対してのカウンセリングなどを行っています。

社員教育制度

企業競争の激しいビジネス環境の中で、ミツミが発展を続けていくためには、グローバルに活躍できる優れた人材を育成していくことが重要であることは言うまでもありません。

キャリアや能力に応じた段階的な教育制度を用意し、職場のリーダーとして活躍するための高度なマネジメント能力の育成を実施しています。

環境報告書

Environmental Report

自然・環境との調和を図り 社会の持続的発展に貢献

環境報告書・目次

環境方針	P.20
環境マネジメントシステム	P.21
2015年度の事業活動と環境負荷の概要	P.26
化学物質管理	P.28
環境負荷の削減	P.30
生物多様性保全	P.32
環境コミュニケーション	P.33
各事業所における環境保護活動	P.34
サイトデータ	P.36

環境方針

Environmental Policy

基本理念

ミツミグループは、地球環境問題(自然・環境との調和)との対応を経営の最重要課題の一つとして位置付け、企業活動のあらゆる面で地球環境の保全はもちろん世界の動きに誠意を持って協調し行動する。

基本方針

ミツミグループは、電子部品の総合メーカーとして、国内外におけるさまざまな事業活動、製品及びサービスが生物多様性と地球環境に与える影響を的確に捉え、環境保全活動と事業活動の共生を推進する。

また、技術的・経済的に可能な限り環境影響を少なくすべく目的・目標を設定し、環境マネジメントシステムの継続的な改善及び汚染の予防を推進すると共に地域社会から広く信頼される企業として基本理念の実現を目指す。

- (1) 総責任者直轄の環境管理組織によって、環境マネジメントシステムを構築し、地球環境保全活動の推進を図る。
- (2) 環境側面に関連して適用可能な法的要求事項、条例、地域協定、顧客の製品環境品質要求、同意するその他の要求事項を順守すると共に、必要に応じて自主管理基準を設けて、環境負荷を低減し環境保全に努める。
- (3) 製品の研究開発・設計段階から省資源、省電力、有害物質不使用、リサイクル性、生態系への影響低減など環境に配慮した製品開発に努める。
- (4) オゾン層破壊物質、有害化学物質等環境に負荷を与える物質は、可能な限り代替技術の採用及び代替物質への転換に努める。
- (5) 企業活動の全ての領域で省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物・汚染物質の削減、二酸化炭素を中心とした温室効果ガスの削減、などの環境保全に取り組む。
- (6) 環境内部監査を定期的を実施し、環境マネジメントシステムの維持・改善に努める。
- (7) この環境方針を全従業員、構成員及び関連する全ての人に周知させると共に、環境への意識高揚と保全活動の質的向上を目指し教育啓蒙を行う。

改訂:2011.05.18

制定:2010.02.16

ミツミ電機株式会社

代表取締役社長 森部 茂

環境マネジメントシステム

Environmental Management System

ミツミグループは、環境基本理念である自然・環境との調和を達成していくために、グループを挙げて取り組んでいます。

ミツミグループ環境マネジメントシステム

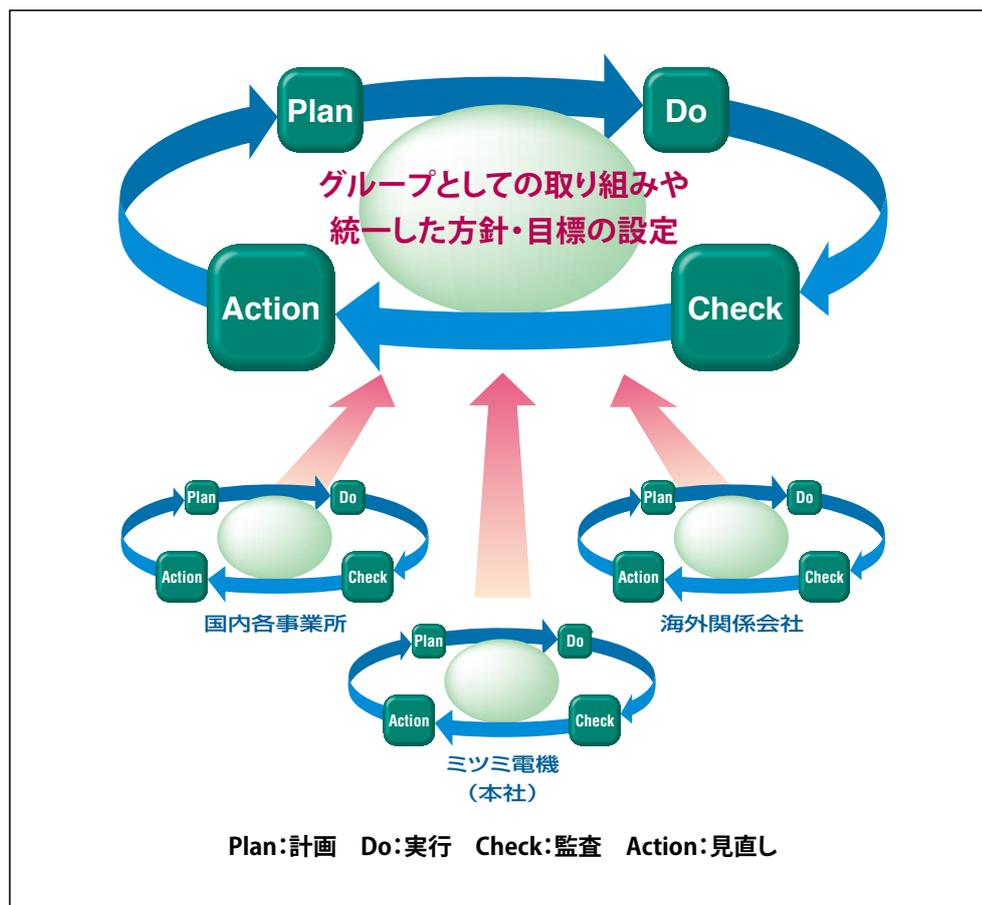
ミツミグループでは、生産活動の大半を海外で行っており、環境保護推進活動を行っていくためには、国内各事業所はもちろんのこと海外関係会社を含めた環境マネジメント体制の構築と継続的改善が不可欠です。

近年の環境問題は、地球温暖化現象、オゾン層破壊、有害化学物質の使用、廃棄物の不法投棄、生物多様性の危機など、国境を越えた地球規模の問題にまで拡大し、我々の企業活動にも多大な影響を及ぼしています。

そこで、ミツミグループは国内各事業所と海外生産拠点全てで、ISO14001のグローバル認証の取得を進め、2010年12月にグローバル認証を取得しました。

グローバル認証の取得により、ミツミグループとして統一した方針・目標を設定し、情報の共有と一元化が図れ、よりスピーディーな対応が可能となりました。

■マネジメントイメージ



ISO14001 認証取得状況

ミツミグループは、1997年から海外工場を含む全拠点でISO14001 認証を取得し環境問題に取り組んできました。

さらに2005年にISO14001 国内統合認証を取得し、2010年12月にはミツミグループとしてISO14001グローバル認証を取得しました。

グローバル認証の取得により、地球環境問題に対し、ミツミグループ統一の方針・目標設定による一元的な取り組みが可能となりました。

これからも企業活動のあらゆる面で、地球環境の保全に、ミツミグループ一体となった取り組みを強化していきます。

■ ISO14001 認証取得状況一覧

拠点名	初回認証取得年月	審査登録機関
ミツミ電機 本社	1997年12月	(財)電気安全環境研究所(JET)
厚木事業所	1997年10月	
秋田事業所	1997年11月	
山形事業所	1997年11月	
九州事業所	1998年1月	
千歳事業所	1998年1月	
台北ミツミ股份有限公司	1997年12月	
台湾ミツミ股份有限公司	1997年11月	
ミツミフィリピン	1998年2月	
セブミツミ	1998年4月	
ミツミテクノロジーマレーシア	1999年3月	
珠海ミツミ電機有限公司	1998年2月	
青島ミツミ電子有限公司	1998年5月	
天津ミツミ電機有限公司	1998年8月	
吳江ミツミ電子有限公司	2005年5月	
タイミツミ	2002年12月	
ミツミオートモーティブメキシコ	2015年12月	

環境監査

ISO14001:2004のシステムに従って、国内各事業所及び海外関係会社において定期的に内部監査を実施しています。国内では全社環境内部監査員として登録されている内部監査員が、他事業所の内部監査に参加して、監査に関する内容や情報などの交換を行ってレベルアップを図っています。

環境品質監査(化学物質管理システム監査)

化学物質に関しては、環境品質監査員に認定されている監査員が、国内各事業所の事業部門や海外関係会社及びサプライヤーの環境品質監査を定期的実施して、化学物質管理体制の確認や問題点の洗い出しとその是正処置を行っています。

環境品質監査員の認定は、社内規程で定めた認定条件に基づいて実施し、国内事業所で11名、海外関係会社で48名が認定者となっています。



●環境外部監査

環境マネジメントシステム

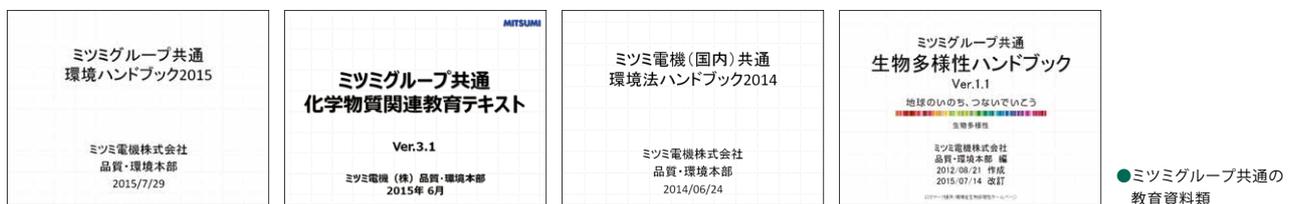
Environmental Management System

環境教育

毎年4月に実施される新入社員への環境教育をはじめとして、ISO14001や当社化学物質管理規程に基づく各種環境教育を国内各事業所及び海外関係会社で実施しています。

環境教育に必要となるテキストは、環境管理部門(品質・環境本部)が内容を検討し作成しています。今までに環境ハンドブック、化学物質関連教育テキスト、環境法ハンドブック、生物多様性ハンドブックなどを発行し、これら教材を国内各事業所及び海外関係会社に配付して従業員全員を対象に環境教育を実施しています。

2015年度は、環境ハンドブック、生物多様性ハンドブック及び化学物質関連教育テキストを改訂し、環境への理解と意識を高めています。



● Mitsumiグループ共通の教育資料類

中長期目標と達成状況

Mitsumiグループの中長期目標(Mitsumiボランタリープラン)は国内各事業所と海外関係会社(生産拠点)を対象にしています。現在は、2013年度から2017年度にかけての活動計画と推進目標を設定した第3次環境ボランタリープランを推進しています。

■ Mitsumiグループ第3次環境ボランタリープランと2015年度の結果

活動区分	推進目標	具体的推進策	推進目標 (2013~2017年度)	2015年度 目標	2015年度 結果	達成度*
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量の削減	○エネルギー(電気、燃料)使用に伴うCO ₂ 排出量の削減 ○設備更新時における省エネルギー設備への展開 ○各活動サイトにおけるエネルギー使用の効率化	CO ₂ 排出量を2017年度までに2012年度比5%削減(購入電力のCO ₂ 排出換算係数は、2013年度以降も2012年度の係数を固定して使用)	2014年度比1%削減	2014年度比2%増加	×
資源循環	廃棄物削減	○Reduce(発生抑制):原材料投入量の改善、製品不良廃棄の削減 ○Reuse(再利用):廃棄物の再利用	廃棄物発生量を2017年度までに2012年度比5%削減	2014年度比1%削減	2014年度比5%増加	×
	廃棄物再資源化	○Recycle(再資源化):廃棄物分別回収の徹底	グループ全サイトにおいて廃棄物再資源化率99%以上	グループ全サイトで99.2%以上	98.9%	×
	省資源	○用水(上水および地下水)の効率的な使用	用水使用量を2017年度までに2012年度比5%削減	2014年度比1%削減	2014年度比7%増加	×
化学物質管理	製品含有化学物質管理	○法規制と顧客要求事項の順守 ○製品含有禁止物質不使用の徹底と流出防止 ○製品環境品質監査による製品環境品質保証システムの改善	化学物質関連クレーム「0」	クレーム「0」	クレーム「0」	○
	工程使用化学物質管理	○PRTR対象物質の排出削減	PRTR対象物質の排出量を2017年度までに2012年度比5%削減	2014年度比1%削減	2014年度比17%削減	○
製品の環境配慮	省エネルギー製品	○製品の待機時消費電力、動作時消費電力の削減	製品環境配慮設計指針及びマニュアルの策定(2014年度中) 製品事業部単位で目標を設定し実施	製品環境配慮設計指針及びマニュアル検討	製品環境配慮設計指針及びマニュアル検討中	△
	省資源製品	○製品の省資源率の向上				
基盤活動	生物多様性保全	○事業所周辺の生態系調査を実施	全活動サイトで生態系調査を実施(2013年度中)	生物多様性保全活動(各サイト1件以上)	24件17サイト	○
		○事業活動における生物多様性への影響度を測るための指標の策定	生物多様性影響度指標の策定(2014年度まで)			
	環境コミュニケーション	○CSR報告書、社内法、イントラネット等による社内教育の継続実施	社内外コミュニケーションの拡大と強化	継続実施	実施中	○
	教育啓蒙活動	○グループ共通環境関連教育ハンドブック等による社内教育の継続実施 ○社員研修時に環境教育を実施	グループ全社員のハンドブック理解度チェックを実施	継続実施	実施中	○

*達成度基準...○:達成 △:一部未達成 ×:未達成

環境会計

集 計 範 囲： 国内各事業所(6拠点)

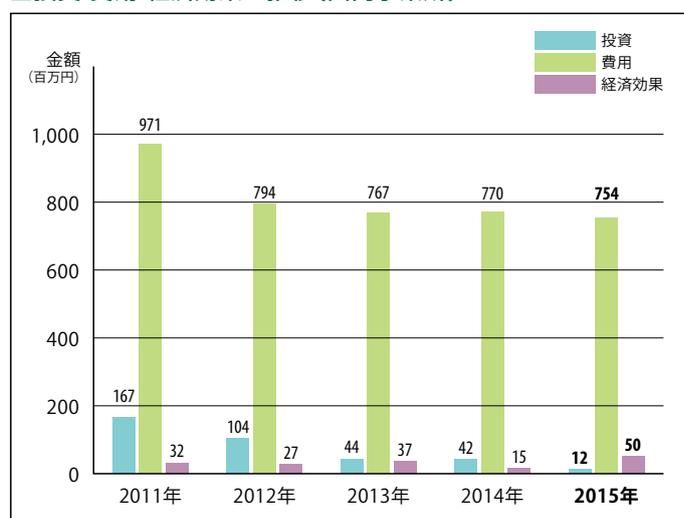
集 計 期 間： 2015年4月～2016年3月

参照ガイドライン： 環境省環境会計ガイドライン2005年版に準拠

集 計 結 果： 2006年度より、国内全事業所を対象に環境会計を本格導入し、環境保全コストと環境保全対策による経済効果を把握しています。

2015年度の環境保全コストは、投資が11.6百万円で、費用が753.6百万円でした。費用の内訳は公害防止コストが46.7%、地球環境保全コストが17.8%、管理活動コストが16.5%を占めています。環境保全対策による経済効果は50.4百万円でした。内訳は省エネルギー効果が96.4%、有価物売却等による収益が5.4%を占めています。なお当社では、その活動成果が明確であるもののみを経済効果として算出しています。

■投資・費用・経済効果の推移(国内事業所)



■環境保全コストと経済効果

分 類	主な範囲	投 資 (百万円)	費 用 (百万円)	経 済 効 果 (百万円)
事 業 エ リ ア 内	公害防止コスト	0.0	352.3	0.0
	地球環境保全コスト・効果	11.6	133.8	47.7
	資源循環コスト・効果	0.0	53.1	2.7
上・下流コスト	環境保全対応の製品・サービス提供のための追加コスト(化学物質削減など)など	0.0	87.7	0.0
管理活動コスト	環境対策組織、環境マネジメントシステムの整備運用、従業員への環境教育など	0.0	124.0	0.0
研究開発コスト		0.0	0.0	0.0
社会活動コスト	地域住民の行う環境活動への支援、情報提供等の社会的取組みなど	0.0	0.3	0.0
環境損傷対応コスト	自然修復のためのコストなど	0.0	2.4	0.0
合 計		11.6	753.6	50.4

2015年度の事業活動と環境負荷の概要

Outline of the Environmental Loads in Fiscal 2015

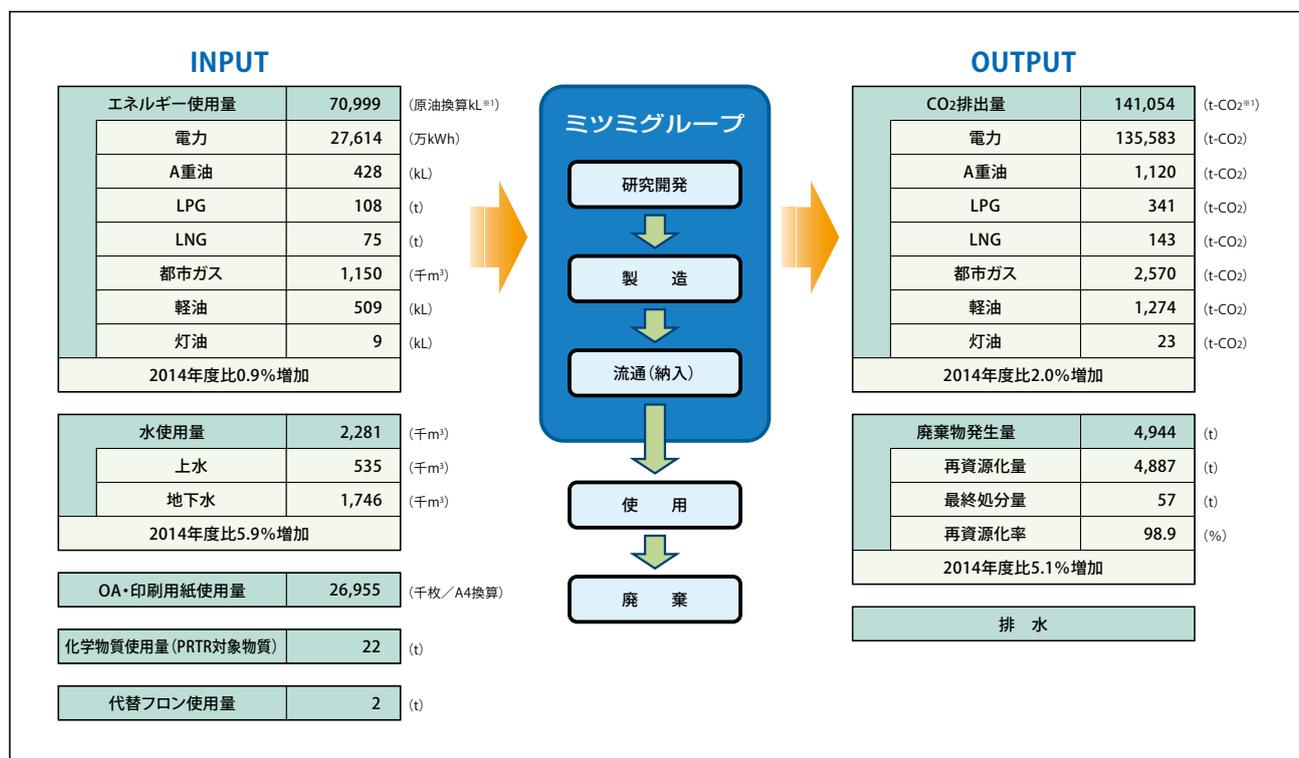
環境負荷の概要

ミツミグループでは、事業活動における直接的な環境負荷（製品の開発や製造、納入）があり、また間接的にも事業・生産活動に伴う排水や廃棄物の発生などによっても環境に負荷を与えています。

特に製造段階では、材料などの資源の使用や、電力・燃料などエネルギーの使用、各種化学物質の使用などがあります。

ミツミグループでは、これら直接・間接の環境負荷を正確に把握すると同時に、環境負荷の削減に努めています。

■2015年度環境負荷データ



※1: 換算係数は海外分を含め日本の経済産業省の換算係数を準用

PRTR対象物質の使用、排出状況

日本では、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(化学物質排出把握管理促進法またはPRTR法)に基づいて、PRTRの対象となる「第一種指定化学物質」462物質について年間1トン以上を製造したり使用している事業者は、環境に排出した量と、廃棄物として処理するために事業所の外へ移動させた量を自ら把握し、年に1回地方自治体に届けなければなりません。

ミツミグループで対象となる事業所は、千歳事業所の1拠点で、2015年度に使用している対象化学物質は4種類、22.28トンです。毎年定期的に地方自治体に報告しています。

■千歳事業所の取扱量と排出・移動状況 単位:トン/年

事業所名	化学物質名	取扱量	排出量					移動量			消費量	除去処理量
			大気	公共用水	土壌	事業所内埋立	合計	廃棄物	下水道	合計		
千歳事業所	キシレン	1.71	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	1.64	0.00	1.64	0.00	0.00
	フェノール	1.31	0.05	0.00	0.00	0.00	0.05	1.25	0.00	1.25	0.00	0.00
	ふっ化水素及びその水溶性塩	17.64	0.18	0.00	0.00	0.00	0.18	0.00	0.88	0.88	0.00	16.59
	メチルナフタレン	1.62	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	1.55	1.55	0.00	0.00
合計		22.28	0.37	0.00	0.00	0.00	0.37	2.89	2.43	5.32	0.00	16.59

化学物質管理

Chemical Substances Management

ミツミグループでは、「入れない、使わない、出さない」をモットーに、化学物質の使用を厳格に管理する化学物質管理システムを構築しています。

化学物質管理システム

2006年7月に欧州で、電気電子機器に含まれる特定有害化学物質の使用制限指令(RoHS指令)が施行され(2011年7月改正)、有害化学物質の使用制限や管理に関する各地域・国(欧州、米国、中国など)の法律が制定・整備されています。さらに2007年6月には欧州で化学物質の登録・評価・認可及び制限に関する規則(REACH規則)が施行され、SVHC(高懸念物質)候補リストが半年毎に追加更新されるなど、規制範囲や義務が拡大しています。それらに合わせ国内外の顧客によるグリーン調達や化学物質管理基準の改定、環境関連調査依頼など、その対応に追われています。

このような厳しい情勢の中で、ミツミグループとして「入れない・使わない・出さない」をモットーに、有害化学物質の使用を厳格に管理、徹底する化学物質管理システムを構築し運用しています。具体的には、以下のような施策を実施し、保証された製品を顧客に納入しています。

1. 化学物質関連管理規程類の見直しと周知の徹底
2. 国内、海外生産拠点における化学物質管理システムの構築と運用及び情報の共有化の徹底

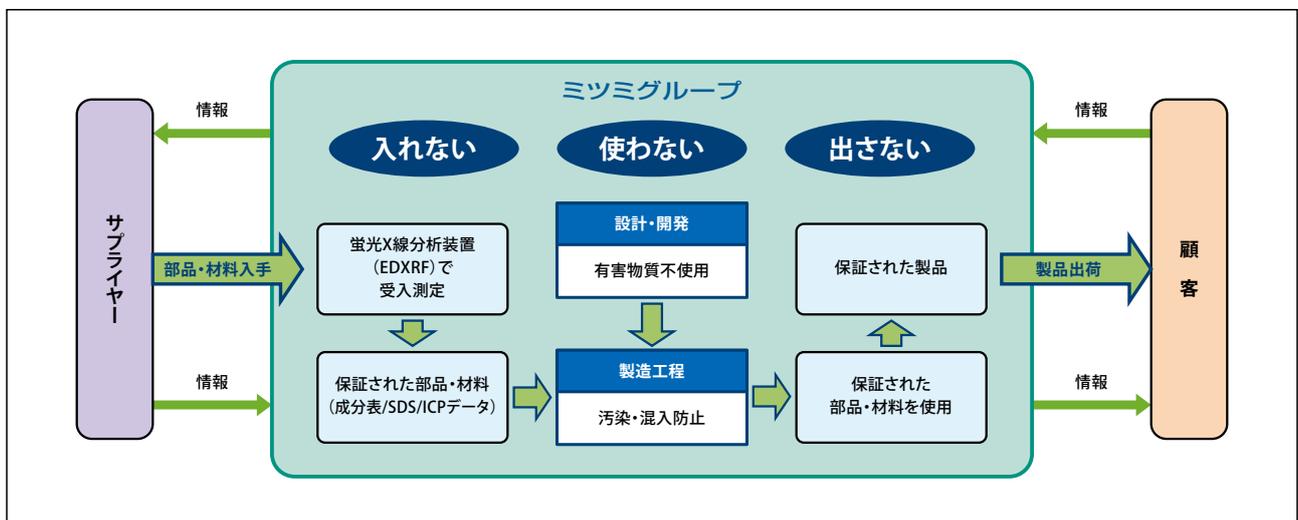
3. 製品含有化学物質のデータベース化
 4. サプライヤー管理のデータベース化
 5. サプライヤーに対する使用禁止物質管理の徹底の指導
- また2009年度から新しい化学物質データベースシステムの本格運用を開始し、世界的にますます厳しくなる化学物質管理に対応できるように、システムを構築しています。

2007年度から2009年度までは国内外のサプライヤー様に、2011年度及び2014年度は海外を中心としたサプライヤー様に化学物質等に関する説明会を開催し、ミツミグループ環境関連化学物質管理基準の順守等をお願いしました。



●フィリピンにおける説明会

■有害化学物質対応の基本コンセプト



化学物質分析装置の設置状況

ミツミグループの有害化学物質対応の基本コンセプト「入れない」「使わない」「出さない」のモットーを着実に実行するために、国内・海外の16拠点に蛍光X線分析装置(EDXRF)を導入して以降、EDXRFで分析不可能な化学物質を分析するガスクロマトグラフ質量分析計(GC/MS)を主要12拠点に導入しています。

特にサプライヤーから納入される部品・材料の数量が多い海外生産拠点では、受け入れ体制を強化するためにEDXRFを複数台導入して対応しています。

また厚木事業所と中国の天津ミツミ電機有限公司では、カドミウム、鉛、水銀を精密分析できる誘導結合プラズマ発光分光分析装置(ICP)を導入しています。

このようにミツミグループでは、スピーディーで確実な検査体制を敷き、有害化学物質管理を徹底しています。

■ EDXRF及びGC/MS、ICP装置の設置拠点と保有台数

拠点名	EDXRF	GC/MS	ICP
ミツミ電機 本社	2	—	—
厚木事業所	3	2	1
秋田事業所	1	—	—
山形事業所	2	1	—
九州事業所	2	1	—
台北ミツミ股份有限公司	2	1	—
台湾ミツミ股份有限公司	3	1	—
ミツミフィリピン	4	2	—
セブミツミ	4	1	—
ミツミテクノロジーマレーシア	2	1	—
珠海ミツミ電機有限公司	4	3	—
青島ミツミ電子有限公司	6	2	—
天津ミツミ電機有限公司	3	1	1
呉江ミツミ電子有限公司	2	1	—
タイミツミ	1	—	—
ミツミオートモーティブメキシコ	1	—	—
合計	42	17	2



● 誘導結合プラズマ発光分光分析装置 (ICP)

化学物質規制への対応

2006年7月に欧州でRoHS指令が施行(2011年7月改正)、2007年6月にはREACH規則が施行され、SVHC(高懸念物質)候補リストが半年毎に追加更新されるなど、世界各国(欧州、米国、中国など)で有害化学物質の規制が拡大・強化されています。

ミツミグループでは、これら有害化学物質の規制に対応するため、法規制の改正、社会の動向、お客様の要望などによる化学物質管理文書類の見直しを随時行っています。特に当社のサプライヤー様を対象にした「環境関連化学物質管理基準」の見直し改訂を行い、2015年9月に第5版を発行し、当社に納入する原材料や電子部品等への使用禁止物質不使用の徹底をお願いしています。なお本基準は、当社ホームページ上でも日本語、英語、中国語の3ヶ国語で公開しています。



● 環境関連化学物質管理基準

環境負荷の削減

Reduction of Environmental Loads

ミツミグループでは、企業活動のすべての領域で省資源や省エネルギー、廃棄物の削減、リサイクルなどにより、環境負荷の軽減に取り組んでいます。

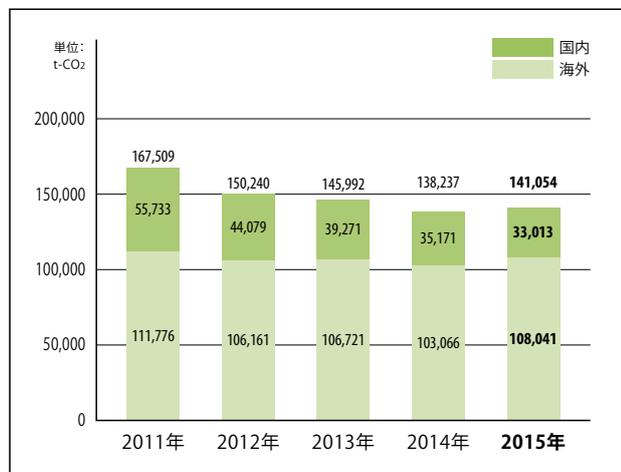
地球温暖化への対応

地球温暖化は、二酸化炭素(CO₂)やメタン、フロンなど温室効果ガスと呼ばれている6種類の物質の大気中濃度が増加することに起因しています。そのうちCO₂の地球温暖化に対する寄与度は、全世界で60%、日本では95%と大きくなっています。従って、いかにCO₂の排出量を削減するかがポイントとなります。

ミツミグループの2015年度のCO₂排出量は、2014年度比で2.0%増加、2012年度比で6.1%削減しました。2015年度は2014年度より生産量が増加したためCO₂排出量が増加しました。

※：購入電力のCO₂排出換算係数は、2013年度以降も2012年度の係数を固定して使用

CO₂排出量推移(ミツミグループ全体)



※：2010年度版より電気の換算係数は電気事業者別の数値を使用。海外拠点の電気の換算係数はIEAのCO₂ EMISSIONS FROM FUEL COMBUSTION HIGHLIGHTSより引用。

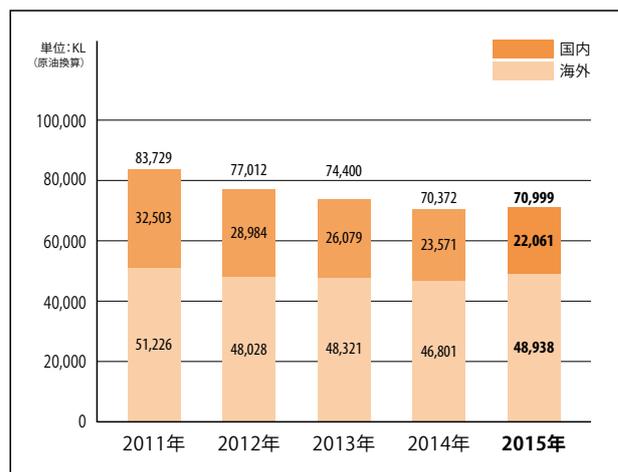
省エネルギーの取り組み

ミツミグループの2015年度のエネルギー使用量は2014年度比では0.9%増加、2012年度比では7.8%削減しています。2015年度は2014年度より生産量が増加したためエネルギー使用量が増加しました。

省エネルギー施策としましては、オフィス部門ではクールビズの推進をはじめ、照明の間引き、空調温度管理の徹底、パソコンの省エネ設定、エレベーターの一部休止、自動販売機の一部停止などを継続的に実施しています。

また各生産部門では設備更新時には省エネタイプへ切り替えを行っています。さらに、2013年度は事業構造改革により半導体工場を2工場から1工場へ集約したことにより、エネルギー削減効果を得ています。

エネルギー使用量推移(ミツミグループ全体)

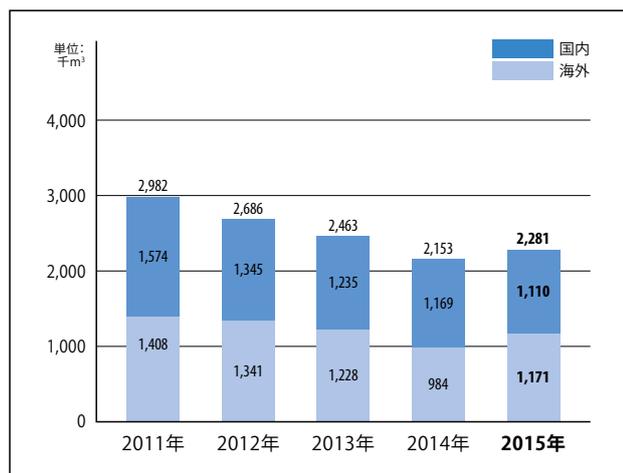


省資源の取り組み

ミツミグループの用水の使用量(上水、地下水)につきましては、2015年度は2014年度比で5.9%増加、2012年度比で15.1%削減しています。

2015年度は、セブミツミでリサイクル用水設備故障により排水リサイクルができず、また新規メッキ設備が稼働したことにより2014年度より使用量が増加しました。

■ 用水使用量推移(ミツミグループ全体)



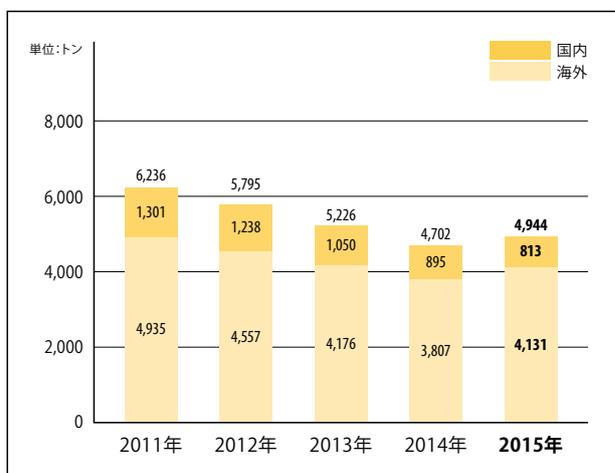
廃棄物削減の取り組み

ミツミグループの廃棄物発生量につきましては、2015年度は2014年度比で5.1%増加、2012年度比で14.7%削減しました。2015年度は生産量増加により廃棄物発生量が増加しました。

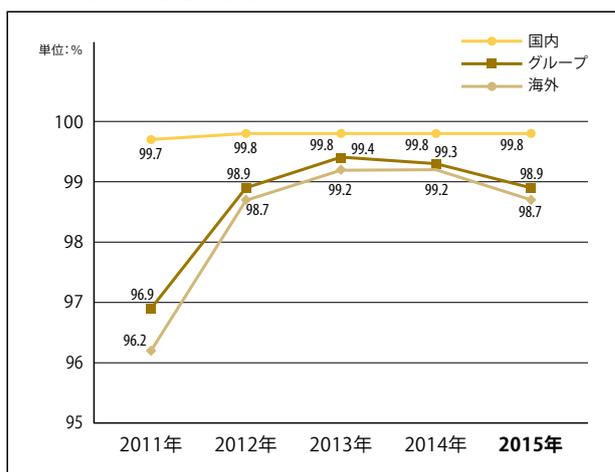
廃棄物再資源化率につきましては、国内においては2006年度にゼロエミッション*を達成して以来現在まで99%以上を維持継続しています。海外においては2013年度にゼロエミッションを達成しましたが、2015年度は呉江ミツミで再資源化が困難な廃棄物が発生したためゼロエミッション未達成となりました。

*ゼロエミッションの定義: 廃棄物の再資源化率99%以上を3ヶ月間連続で持続する。

■ 廃棄物発生量推移(ミツミグループ全体)



■ 廃棄物再資源化率推移(ミツミグループ全体)



生物多様性保全

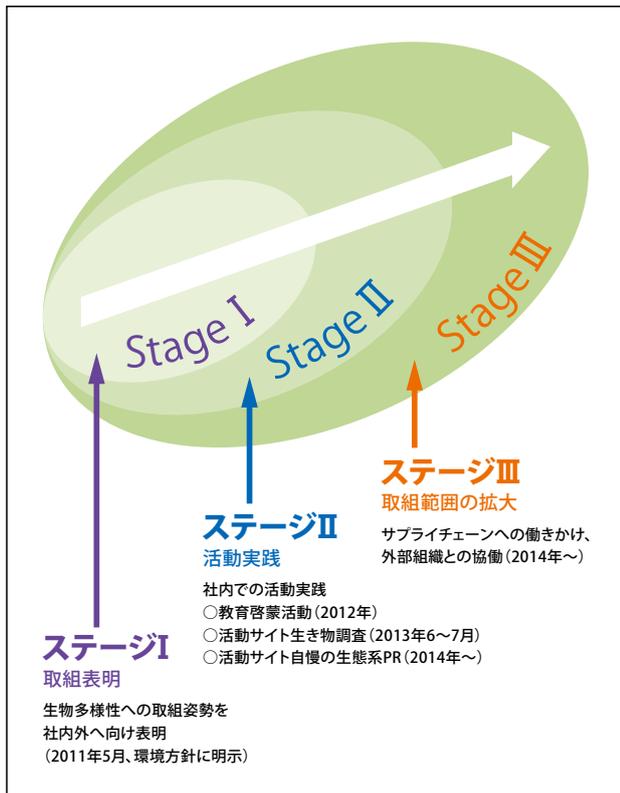
Biodiversity Conservation

ミツミグループは、事業活動、製品及びサービスが生物多様性と地球環境に与える影響を的確に捉え、環境保全活動と事業活動の共生を推進しています。

取組ステージを段階的にレベルアップ

ミツミグループは生物多様性への取組ステージを3段階に設定し、レベルアップを目指しています。2015年度はステージII「活動実践」の充実とステージIII「取組範囲の拡大」を進めました。具体的には、各活動サイト自慢の生態系PR、会社周辺の清掃活動や地域の植樹活動の推進などを実施しました。

取組ステージ



各活動サイトの生態系PRを実施

2014年度から生物多様性保全の充実した活動を目指し、各活動サイト自慢の生態系PRを実施しました。1~2カ月に1サイトのペースで順次全サイトを実施する計画で進め、2015年度は7サイトのPRを行い、生物多様性保全の意識と理解の向上を図りました。

私達の自慢の生態系 CQE 2015/04

サイトの特徴
 CQEは中国北方沿海都市の青島一山を背に海に面し、風光明媚、爽やかな気候、有名な臨海観光都市に位置します。豊かな緑と赤煉瓦の屋根、青い海、青い空が入り乱れ、青島の美しい姿を輝かせています。青い波、彩の鮮やかな砂浜は青島独特の海岸線を形成しています。歴史、宗教、民俗、風土人情、祝日祝典は青島に豊かな文化修養を与えています。

自慢の生態系
 青島三美は青島市西海岸出口加工区に位置し、周辺の公園に木が茂り、豊かな緑葉に囲まれ、レクリエーション施設が完備されています。付近には大量の桐の木、メタセコイアの木、イチヂク、ナツメ、イロハモミジの木、オオカメモミジの球、コウシンバなどの高さの高い植物が植えられています。春葉は、花が鮮やかに咲いて、緑葉はとろとろと、木には緑葉が茂り、ミツバチは忙しく、小鳥は楽しげに、カササギは巣作りを忙し、心地よさやかです。
 秋は収穫の季節で、アップル、ナシ、ブドウ、イチゴ、サクランボ、柿、ナツメの実があり、人々は楽しみと味わいます。会社内でも大量に水と空気を乾燥し、休み時間に同僚達は空気で散歩し、世間話をし、小鳥を飼って、羽根をやり、調音し、バドミントンなどの娯楽活動で、新鮮な空気を呼吸し、また同僚の間のコミュニケーションを増加して、また仲を深めることができます。まさに一挙両得です。

●青島ミツミ電子有限公司の生態系PR

私達の自慢の生態系 MAM 2016/2

サイトの特徴
 サンルイスポシはメキシコ中央高原地帯の北部に位置します。9つの州に隣接し、国内で最も多く他州との州境を持つ州です。州名の由来は「サンルイスレイ」と呼ばれるフランス王、ルイ9世にちなんで「サンルイス」、また山として有名であったポピリアのポシ山から「ポシ」を取っています。地域住民にとって最も重要で伝統的なイベントである沈黙の行進は聖金曜日に開催されます。その厳粛さと神格主義は最も地域に定着した習慣です。

自慢の生態系
 ミツミオートモーティブメキシコは、ミレニウム工業地域の中にあります。この地域では、メスキート、コショウボクなどの様々な樹木があります。工場周辺には水遣りやあまりなくても花をつけるマツバギクが生息しています。ピンクや紫色の花、緑葉が目を惹く。特に春の季節には種々の植物がこの緑豊かなサイトで育ちます。朝には工場の庭園に生きているウサギや鳥のような野生動物を見ることが出来ます。時々、ウサギや野ネズミやヘビ(アラクナ)の卵の卵をするハヤブサを見ることが出来ます。昼食時には従業員は歩きながら豊かな生態系を楽しむ機会があります。

コショウボク メスキート アカシア マツバギクの花 タウイの実
 ソウゲンハヤブサ ウサギ 鳥 マツバギクの葉 緑草
 ヘビ 沈黙の行進

●ミツミオートモーティブメキシコの生態系PR

環境コミュニケーション

Environmental Communication

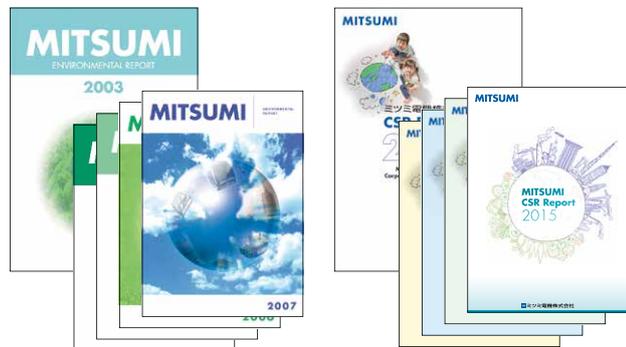
ミツミグループでは、環境保護推進活動の状況を社内・社外に伝達するため、情報を公開しています。

情報発信

社外への情報発信

2004年2月、これまでの環境保護推進活動をまとめた当社環境報告書を創刊。以来、各年度の環境活動内容を紹介した環境報告書を発行しています。また2008年度版からは、CSR(企業の社会的責任)の活動を盛り込んだCSR報告書としています。

また、インターネット上の当社Webサイトを通じて、CSR報告書の掲載、社会貢献活動と環境保護推進活動の各取り組みについて紹介しています。環境関連化学物質管理基準に関する資料も日本語、英語、中国語の3ヶ国語で公開しサプライヤー様への利便性を図っています。



●環境報告書2003～2007

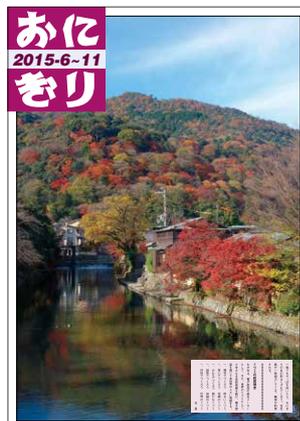
●CSR報告書2008～2015



●ミツミ電機Webサイト: <http://www.mitsumi.co.jp/profile/eco.html>

社内への情報発信

当社従業員に対しては、イントラネットを通じて環境情報の発信と共有に努めています。また、社内報「おにぎり」の中でも随時環境情報ページを掲載し、トピックス的な環境活動を取り上げて啓発に努めています。



●ミツミグループ社内報「おにぎり」



●ミツミグループイントラネット

各事業所における環境保護活動

Environmental Protection Activities at Each Factories

ミツミグループでは各事業所でも環境保護活動を推進し、様々な活動を通じて地域社会への貢献にも努めています。

セブミツミのマングローブ植樹活動

2015年10月18日、セブミツミでは環境活動の一環として、社員とその家族、協力工場からの参加者総勢150名でセブミツミのあるダナオ市の干潟にて、マングローブの苗2,500本の植樹を行いました。セブミツミのマングローブ植樹活動は2012年9月から始め、今回で5回目、植樹総数は11,000本になりました。

植樹活動は2008年から力を入れて取り組んでいます。マングローブ以外の植物も含めると、活動回数は21回、植樹総数はおよそ25,000本になります。

マングローブは干潟に生える植物です。ひざ上まで水につかったり、ぬかるみに足を取られたりすることもあり、干潟での植樹作業はなかなか大変です。マングローブの特徴は、複雑に入り組んだ大きな根にあります。根のあいだは、カニや魚などの産卵場所になります。また、幼魚の生育場所・隠れ家となるなど、マングローブ特有の生態系が育まれています。そして大きく張った根は、台風の高波時に塩水が内地へ流れ込むのを防ぎます。近年では、農業に転用されたり、炭や薪のために伐採されてしまったことで、マングローブ林の減少が問題化しています。

わたしたちは生態系維持のため、また、海辺の人々の生活を守るために今後も積極的に植樹活動と環境保護活動を行っていきます。



●セブミツミのマングローブ植樹活動の様子

ミツミグループ環境保護推進活動のあゆみ

年 月	活動内容
1990/1	全社臨時フロン対策委員会設置
1993/6	特定フロン・トリクロロエタンを全廃。環境本部設置
1993/12	全社環境委員会設置
1994/8	環境保護推進活動計画(ボランタリープラン)策定
1998/1	国内全生産拠点(7拠点)でISO14001認証取得完了
1999/3	海外主要生産拠点(13拠点)でISO14001認証取得完了
1999/9	ミツミ鉛フリー化推進専門委員会設置
2000/12	有機塩素系化合物(ジクロロメタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン)を全廃
2001/2	ミツミWebサイトにミツミの環境活動を掲載
2002/2	全社化学物質管理プロジェクト設置
2002/7	蛍光×線分析装置導入開始
2002/10	環境関連化学物質管理規程の制定
2003/1	国内外・主要生産拠点の環境品質内部監査を開始
2004/2	ミツミ環境報告書2003を創刊/ISO14001国内統合化推進活動を開始
2004/8	全社共通の環境方針、環境マニュアル、規程類を制定
2005/1	ISO14001国内統合認証を取得
2006/1	ISO14001国内統合認証に千歳事業所を追加
2006/3	国内全事業所でゼロエミッションを達成
2006/11	ガスクロマトグラフ質量分析計導入開始
2006/12	化学物質管理に関する海外サプライヤー説明会開催
2007/4	第二次環境保護推進活動(ボランタリープラン)策定
2007/5	化学物質管理に関する国内サプライヤー説明会開催
2008/3	厚木事業所でISO/IEC17025試験所認定を取得/化学物質管理に関する海外サプライヤー説明会開催
2009/2	従来の環境報告書にCSRを含めた「CSR REPORT 2008」を刊行
2009/10	ミツミグループ全体のISO14001グローバル認証取得の取組み開始を宣言
2010/2	ミツミグループ全体の環境方針を発行
2010/3	中国 天津ミツミでISO/IEC17025試験所認定を取得
2010/12	ミツミグループISO14001グローバル認証を取得
2011/5	ミツミグループ環境方針に生物多様性の保全を追加
2011/6	化学物質管理等に関する海外サプライヤー説明会開催
2013/4	ミツミグループ第3次環境ボランタリープラン策定
2013/11	ミツミグループ全体でゼロエミッションを達成
2014/8	ミツミグループグリーン調達基準書制定
2014/12~2015/2	化学物質管理等に関する海外サプライヤー説明会開催

サイトデータ

Site Data

ミツミグループは、世界各地の事業所で生産活動を行っています。

生産の多くを海外で行っているため、海外事業所においても、国内事業所と同様に環境負荷データを把握しています。2015年度時点で生産設備を持ち、環境負荷データを把握している事業所についてのみ記載します。

■環境負荷データ一覧

会社・事業所名	エネルギー使用量							
	電力 (万kWh)	A重油 (kL)	LPG (t)	LNG (t)	都市ガス (千m ³)	軽油 (kL)	灯油 (kL)	合計 (原油換算kL)
ミツミ電機 本社	314	0	0	0	235	0	0	1,053
厚木事業所	821	0	0	0	182	14	0	2,259
秋田事業所	156	0	3	0	0	0	0	392
山形事業所	320	73	0	0	0	0	6	872
九州事業所	83	0	4	0	0	0	0	211
千歳事業所	6,621	0	0	0	733	2	3	17,274
国内合計	8,315	73	7	0	1,150	16	9	22,061
台北ミツミ股份有限公司	109	0	2	0	0	0	0	273
台湾ミツミ股份有限公司	931	0	0	0	0	0	0	2,308
ミツミフィリピン	2,815	263	0	0	0	0	0	7,246
セブミツミ	9,261	0	3	0	0	335	0	23,297
ミツミテクノロジーマレーシア	468	0	0	0	0	0	0	1,163
珠海ミツミ電機有限公司	2,478	0	0	59	0	0	0	6,229
青島ミツミ電子有限公司	1,216	0	0	16	0	138	0	3,172
天津ミツミ電機有限公司	1,000	0	21	0	0	20	0	2,528
呉江ミツミ電子有限公司	686	92	75	0	0	0	0	1,893
タイミツミ	311	0	0	0	0	0	0	770
ミツミオートモーティブメキシコ	24	0	0	0	0	0	0	59
海外合計	19,299	355	101	75	0	493	0	48,938
ミツミグループ合計	27,614	428	108	75	1,150	509	9	70,999

■環境負荷データ一覧

会社・事業所名	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	水使用量			OA・印刷用紙 使用量 (千枚/A4換算)	代替フロン 使用量 (t)	廃棄物 発生量 (t)	最終 処分量 (t)	再資源化率 (%)
		上水 (千m ³)	地下水 (千m ³)	合計 (千m ³)					
ミツミ電機 本社	1,839	20	0	20	2,068	0	53	0.0	100.0
厚木事業所	3,535	0	135	135	699	0	48	0.3	99.4
秋田事業所	685	6	2	8	295	0	63	0.2	99.7
山形事業所	1,594	2	53	55	812	0	39	0.0	100.0
九州事業所	337	3	0	3	845	0	26	0.0	100.0
千歳事業所	25,023	10	879	889	—	0	584	0.8	99.9
国内合計	33,013	41	1,069	1,110	4,719	0	813	1.3	99.8
台北ミツミ股份有限公司	699	3	0	3	226	0	29	0.1	99.5
台湾ミツミ股份有限公司	5,920	10	5	15	432	0	126	0.0	100.0
ミツミフィリピン	16,814	137	0	137	3,954	1	860	22.2	97.4
セブミツミ	46,625	0	660	660	3,575	1	1,631	8.2	99.5
ミツミテクノロジーマレーシア	2,677	17	0	17	219	0	122	1.0	99.2
珠海ミツミ電機有限公司	11,279	180	0	180	2,179	0	544	0.0	100.0
青島ミツミ電子有限公司	9,463	46	0	46	8,650	0	173	0.4	99.8
天津ミツミ電機有限公司	7,610	44	0	44	1,222	0	426	0.0	100.0
吳江ミツミ電子有限公司	5,104	56	0	56	870	0	194	21.4	88.9
タイミツミ	1,742	0	12	12	802	0	12	0.0	100.0
ミツミオートモーティブメキシコ	108	1	0	1	107	0	14	1.9	86.9
海外合計	108,041	494	677	1,171	22,236	2	4,131	55.2	98.7
ミツミグループ合計	141,054	535	1,746	2,281	26,955	2	4,944	56.5	98.9

ミツミワールドワイドネットワーク

MITSUMI Worldwide Network

国内事業所・海外生産拠点が緊密に連携。
開発・設計・生産を一体化したミツミネットワーク。

GERMANY

- ミツミ エレクトロニクス ヨーロッパ本社

FRANCE

- ミツミ エレクトロニクス ヨーロッパ
フランス事務所

PEOPLE'S REPUBLIC OF CHINA

- 吳江三美電子有限公司



- 美上美有限公司
- 美賞美電子貿易(上海)有限公司
深圳分公司
- 珠海三美電機有限公司



THAILAND

- タイ ミツミ



- タイ ミツミ バンコク事務所

MALAYSIA

- ミツミ テクノロジー マレーシア ペナン事務所
- ミツミ テクノロジー マレーシア



SINGAPORE

- ミツミ エレクトロニクス シンガポール



PHILIPPINES

- ミツミ フィリピン



- セブ ミツミ



PEOPLE'S REPUBLIC OF CHINA

- 天津三美電機有限公司 北京事務所
- 天津三美電機有限公司



- 美賞美電子貿易(上海)有限公司
- 青島三美電子有限公司



KOREA

- 韓國三美株式会社

MEXICO

- ミツミ オートモーティブ メキシコ



TAIWAN

- 台湾三美股份有限公司



- 台北美上美股份有限公司



- ミツミ電機株式会社 台湾支店

■:工場

●:営業所・事務所

U.S.A.

- ミツミ エレクトロニクス シアトル事務所
- ミツミ エレクトロニクス クバティーン事務所
- ミツミ エレクトロニクス デトロイト本社

JAPAN

- 千歳事業所
- 秋田事業所
- 山形事業所
- 本社
- 厚木事業所
- 京都事務所
- 刈谷事務所
- 関西支店
- 洲本事務所
- 広島事務所
- 九州事業所
- 九州出張所

■ 千歳事業所



■ 秋田事業所



■ 山形事業所



■ 九州事業所



● 本社



■ 厚木事業所





ミツミ電機株式会社

本社 〒206-8567 東京都多摩市鶴牧2-11-2 TEL: (042) 310-5333大代表 FAX: (042) 310-5168

MITSUMI ELECTRIC CO., LTD.

Corporate Headquarters : 2-11-2 Tsurumaki, Tama-shi, Tokyo 206-8567, Japan
TEL : (042)310-5333 FAX : (042)310-5168